

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	保幼小中が一体となり、「つながり」を深める。	教科指導[教育課程]を通じて、保幼小、小中、小小のつながりを深める。 Plan ・合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施	H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む] ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 Do (掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。)	H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。 ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 See ・課題を把握し、改善していく。
確かな学力の育成	自ら考えよりよく行動する	「心豊かによりよく生きる子どもを目指して～自ら考え行動する力の育成～」 ・教員の授業力向上を図る 研究授業・校内研修の実施 ・外国語活動の推進 モジュール授業の試行 ・学力・学習状況調査の分析・考察 ・思考を表出させる 思考ツールの活用 ・情報機器の活用 タブレットを活用した授業づくり ・ユニバーサルデザインを活かした授業 ・朝学習の充実し、基礎基本の徹底 ・算数ダッシュの充実	1年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら、再度組み立てなおす。 ・英語活動の本格実施 授業の充実 モジュール学習の充実 評価の研究 ・道徳授業、評価の充実	2年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら総括を行っていく
豊かな人間性を育む	仲間を認め合い共に学ぶ集団	・各学年の重点目標の達成 ・集団づくりの取組みの推進 ・いじめを許さない集団づくり ・食肉プロジェクトの取組み ・道徳教育の充実	1年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら、再度組み立てなおす	2年目の取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら総括を行っていく
健康・体力の増進	自ら楽しんで、運動する子の育成	・体育の授業で 授業力 教具・教材の工夫 茨木っ子運動 校内実技研修 ・休み時間で 遊具の充実 マラソン週間 クラスのみんな遊び 友達学級との遊び ・保健体育科の授業の充実 ・食育 ・安全・防災教育の充実	1年目の取組みの成果と課題を検討し、年度毎に組み立てなおす	2年目の取組みの成果と課題を検討し、改善を行い、総括を実施する。
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>② 書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③ 読むこと 概ね良好な結果であった</p> <p>④ 言語事項 概ね良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>② 短答式 概ね良好な結果であった</p> <p>③ 記述式 対象問題なし</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・言語事項の領域(漢字の読みや書き、ことわざの意味など)では、比較的高い正答率であったが、「参加たいしょう」の書きの問題の正答率が低かった。同じ問題が全国でも低い傾向だった。 ・無解答率は、低い傾向となった。 ・手紙の後付けに必要な日付、署名、宛名の適切な位置について適切なものを選択する問題(2二)の正答率が一番低い結果となった。 </div>	<p>国語B (領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>② 書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③ 読むこと 概ね良好な結果であった</p> <p>④ 言語事項 対象問題なし</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>② 短答式 良好な結果であった</p> <p>③ 記述式 概ね良好な結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・領域別では、「話すこと・聞くこと」の領域が高く、「読むこと」の領域が低かった。 ・問題文の中の発言の意図を捉え問題(3二)、問題文の内容から自分の考えをまとめて記述する設問(3三)の正答率が低かった。 </div>
--	--

分析

A・全領域で全国平均を上回り基礎的なことは理解できている。

- ・一番正答率の低い「手紙の後付け」については、学習することで正答率が上がるので、感謝の手紙などを書く機会に手紙を縦書きにしたり、正しい形式を学習する経験を積ませていく。
- ・文を読んで、内容をつかむことはできている。朝の読書や図書の授業の確保で力がついている。
- ・漢字の書きとりで、無解答率が高い問題があるので、学年が上がってもおさらいをできるように工夫することで身につけていく必要がある。

B・制限された文字数で短くまとめて書く問題の正答率が低く、無解答率も高い。

- ・普段の豊富な読書の経験がいかされている。最後の問題にまで手を付けられていないので、自分の考えをまとめて書く力を定着させる必要がある。
- ・全国平均は下がったが本校は上がっており全学年で実施しているノート指導の一定の成果がみられる。

AB 共通

- ・選択式の問題の無解答率が全国平均よりかなり高い傾向がある。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

対象問題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・「量と測定」の領域の正答率が大きく全国平均を上回った。
- ・「 $5 \div 9$ 」の商を分数で表す問題が、正答率が一番低く、無解答率も高かった。
- ・資料から読み取って適切な数字を求める問題の正答率が一番低かった。

算数B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・「数と計算」の領域において正答率が一番高かったが、13本の直線を使う場合手紙の長い辺を3等分するには何本目の直線と交わった点かを書く設問2(2)において全国と同様正答率が低かった。
- ・「図形」領域の問題は1問で、記述式であったため正答率は最も低く、解答を選んだ理由を記述することが苦手だったように思われる。

分析

A・「量と測定」の領域は良好な結果であるが、その他の領域は全国平均を下回っている。

- ・小数の乗法・整数の乗法・乗法の場面の立式は、相当数の児童ができています。
- ・資料から表にまとめる問題は全国平均を下回り、無解答率も高い。
- ・平行四辺形や三角形の面積は正答率が高く、よく定着している。
- ・小数+整数の計算問題や最小公倍数を求める問題の正答率が全国平均よりやや低い。
- ・二次元表の理解に課題がある。

B・全国平均とほぼ同じくらいで、概ね良好な結果だった。

- ・料金の差について求める問題の正答率が全国平均を大きく上回っているが、その一方で無解答率も高い。問題を最後まで考え抜いて自分の考えを少しでも書くことが苦手で、少し考えてわからないものはそのまま空白にしてしまう児童がいることが今後の課題である。
- ・基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断理由を記述することに課題がある。
- ・定着を図るための反復や復習がさらに必要である。
- ・読解力がある設問の無解答率が高い。授業で十分思考する時間を確保することに留意していく。

AB 共通

- ・選択式の問題の無解答率が全国平均よりかなり高い傾向がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・全教科合計の平均正答率は H.19 年度から全国平均を上回っていて、昨年やや下がったが本年度は上昇している。
- ・算数 A が全国平均をやや下回っているが昨年より上昇しており、全体としてみると概ね良好な結果であったが、課題は多い。
- ・無解答率が H.25 年度から全国平均より高くなっており、今年度が最も高い。無解答率自体は昨年より下がったが課題が残る結果となった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー（EP）層についての分析

- ・学力高位層は全国平均より多い一方で、低位層、EP 層も多く、中位層が少ない。学力の 2 極化傾向にある。
- ・学力高位層は H.19 年度から今年度まで全調査で全国平均より高い。一方で、学力低位層は、国語 B 算数 B は低いが、国語 A 算数 A は上回っており課題がある。EP 層は昨年より下がったが全国平均より高かった。

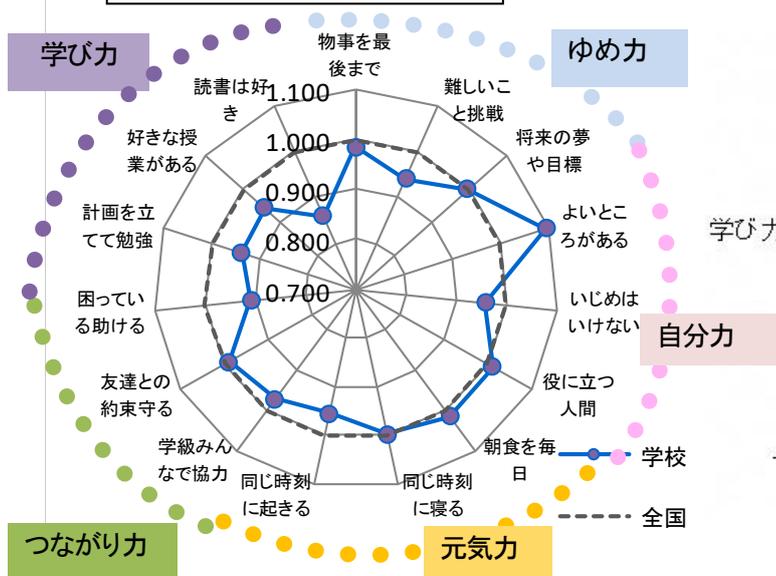
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

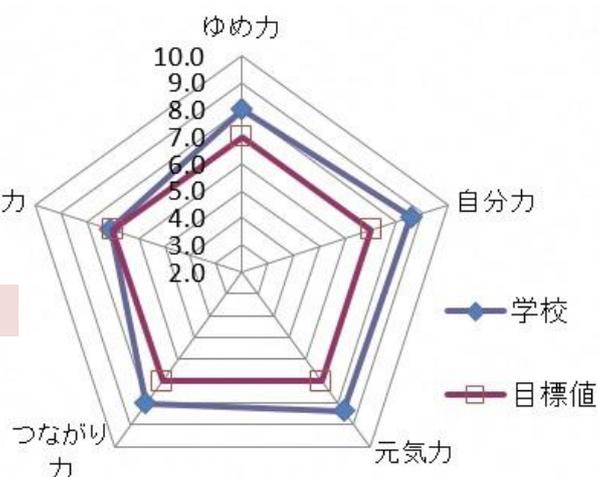
- ・発表や話し合い活動を充実させるためにペア学習やグループ学習を行ったり、全クラスで「声のものさし」など有効な方法を模索していく。
- ・授業の中で、自分の考えを書いたり、調べたことをまとめる活動をさらに意識的に取り入れていく。
- ・めあてや振り返りを書くことで学習内容の理解を深める。
- ・基礎基本の定着をねらいとして、算数の授業において、6年間を通して授業の最初5分間で算数ダッシュを実施し、基礎的な力を今後も身に付ける。
- ・少人数指導を実施している学年では習熟度に応じたダッシュプリントで算数 A の基礎問題の定着を図っていく。今回の調査で正答率が低かった「小数+整数」「最小公倍数」「割り算を分数に直す」などつまずきの多い問題にも繰り返し取り組む。
- ・算数 B のような問題そのものの文章が長くて読解力のいる算数の発展的な問題にも取り組んでいく。
- ・算数科において、問題解決学習の充実を図る。
- ・つまずきのある児童へのサポート体制を充実する。
- ・教具を使いやすいよう教科書の領域別に整理しなおし、中身が見やすく使いやすいよう保管を工夫して活用を進める。
- ・学習サポーター・業務サポーターと連携し、児童の実態に応じた個々にあった学習支援を充実させる。
- ・授業をよりよくしていくために引き続き校内研修を行い、教員の授業力向上を図る。
- ・わかりやすいノート指導ができるよう教職員間で学びを深めていく。
- ・図書館支援員と連携し、読書活動の充実を図る。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



分析

- ・全体的に見て、子どもに育みたい5つの力については、目標値を上回っている。
- ・「元気力」朝食を毎日食べ、同じ時間に寝て起きる習慣はおおむねできている。
- ・「元気力」では、どの設問に対しても肯定的に答える児童が多い。
- ・「自分力」では、「自分にはよい所がある」や、「人の役に立ちたい」の設問に肯定的に答えた児童の割合が高いが、「いじめはいけない」という肯定的な割合は高いが、特にそう思うの割合が全国平均より低い
- ・「学び力」の、読書に対しての設問では、好きな児童と苦手を感じる児童に分かれている。「家で自分で計画を立てて勉強する」については、半数より多いが、全国平均より低い。
- ・「つながり力」の「人が困っているときは、すすんで助けていますか」については、肯定群が、府や全国平均より低い。友達との約束はよく守っており、学級で何かをやりとげた達成感も感じている。
- ・「ゆめ力」の「将来の夢や目標をもっていますか」の肯定群は高いが、「失敗を恐れなくて挑戦していますか」については、府や全国平均よりも低い値となった。

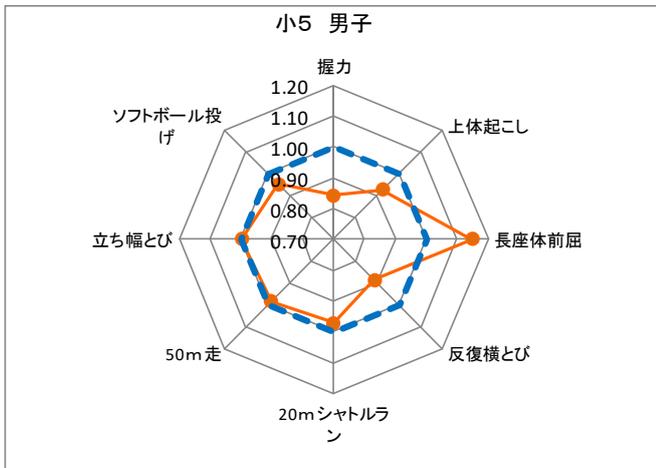
取組み

- ・生活チェックを行い、家庭への啓発も含め規範意識を養う。生活チェックの項目に学び力の「自分で計画を立てて勉強する」の質問を入れる。
- ・つながり力を高めるために、学年での取組みや異学年交流も引き続き積極的に取り入れていく。
友だち学級の取組み（フレンドリータイムでの遊び 読み聞かせなど）
- ・地域との方との交流を深め、さまざまな出会いや体験を引き続き行っていく。
 - 1年：公園めぐり 花プロジェクト
 - 2年：まちたんけん チューリップ交流
 - 3年：地域の人からの聞き取り
 - 4年：みそづくり
 - 5年：しめ縄づくり
 - 6年：地域清掃
- ・読書月間などの取組みを図書館支援員と連携し、工夫し継続していく。

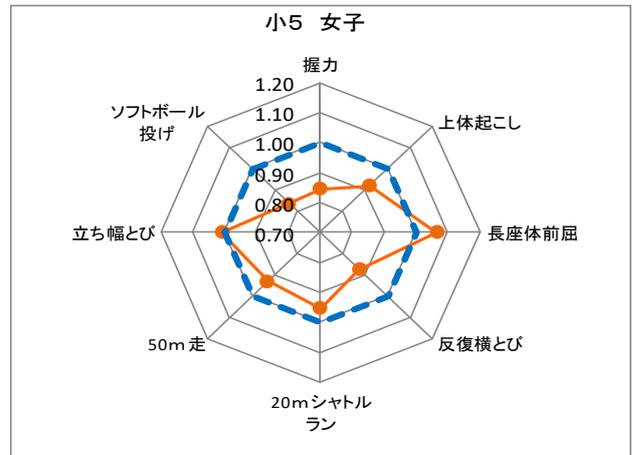
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

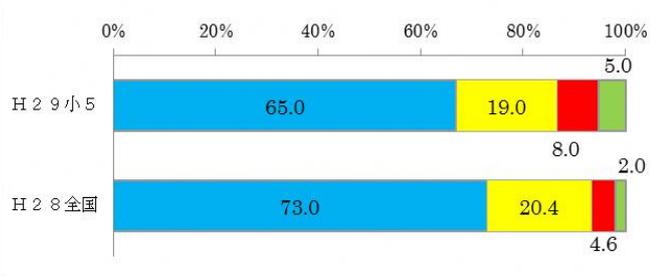
男子 (小5)



女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・全体的に全国平均以下が目立つ。
- ・男女共に握力、反復横跳びが全国平均より極端に低い。
- ・反復横跳びは去年よりラダーでのプログラムを行っている。男子は以前全国平均以下だが去年の数字よりは上がってきている。
- ・立ち幅跳びが去年に比べて上がっている。
- ・長座体前屈は去年より取り組みを続けていたので大きく成果が出ている。
- ・20mシャトルランも男女共に若干の上昇がみられる。

取組み

- ・引き続き「茨木っ子運動」を行い、体幹を鍛える。
- ・今年各クラスに配布した遊具を活用して休み時間も外で遊ぶように促す。
- ・体育委員会などによって休み時間も外で児童が運動する時間を設ける。(外に出ようデイ 冬の運動など)
- ・校内研修を行い、教員の授業力向上を図る。
- ・今年も短期プログラムを引き続き行う。